

いつき

厳神社

祭神 伊邪那岐神 いざなぎのかみ 宇迦之御魂神 うかのみたまのかみ 伊邪那美神 いざなみのかみ

祭日 新暦十月第一日曜日

由緒

由緒沿革など古伝記は、慶長年間（一五九六～一六一四）に焼失して不詳です。しかし応安二年（一三六九）再建という棟札が残存していることから、南北朝時代には既に当地区に鎮座していたことが伺えます。

古老の伝承によれば、福島正則が広島城主であった時、亀居城の守護神として尊崇極めて篤く、氏神の例大祭などには自らが幣帛料を奉献していたといわれています。

当時は本丸に鎮座の神社も亀居城没落の後には現在の地（亀居城妙見丸）に遷座されており、また、厳宮大明神と称していた社名も明治になって厳神社と改称されて現在に至っています。

■ 「城六兵衛君之神霊」木碑

慶応二年（一八六六）六月、長州の役で長州軍に玖波沖で誤射された広島藩士・城六兵衛の木碑が境内の中ほどにあり、いく度か建て替えられ、現在まで守り続けられています。

平成二十六年三月

大竹市教育委員会